

2026年4月版

予防接種スケジュール

大切な子どもをVPD(ワクチンで防げる病気)から守るためには、接種できる時期になったらできるだけベストのタイミングで、忘れずに予防接種を受けることが重要です。このスケジュールはNPO法人 VPDを知って、子どもを守ろうの会によるもっとも早期に免疫をつけるための提案です。お子さまの予防接種に関しては、地域ごとの接種方法やVPDの流行状況に応じて、かかりつけ医と相談のうえスケジュールを立てましょう。

ワクチン名	接種済み ☑	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	(満年齢)
不活化ワクチン B型肝炎 (母子感染予防を除く) 定期	□□□		①	②		③										
生ワクチン ロタウイルス (飲むワクチン) 定期	1価 □□ 5価 □□□		①	②	③											
不活化ワクチン 小児用肺炎球菌 定期	□□□□		①	②	③				④							
不活化ワクチン 五種混合 (ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ・ヒブ) 定期	□□□□		①	②	③				④							
生ワクチン BCG 定期	□				①											
生ワクチン MR (麻しん風しん混合) 定期	□□								①							
生ワクチン 水痘 (みずぼうそう) 定期	□□								①							
生ワクチン おたふくかぜ 任意	□□								①							
不活化ワクチン 日本脳炎 定期	□□□□															
mRNAワクチン 新型コロナ 任意																
不活化ワクチン インフルエンザ 任意	毎秋															
不活化ワクチン HPV (ヒトパピローマウイルス) 定期	□□□															
不活化ワクチン 髄膜炎菌 任意	□															
渡航ワクチン	□															



生ワクチン



mRNAワクチン



定められた期間内で受ける場合は原則として無料(公費負担)。



多くは有料(自己負担)。自治体によっては公費助成があります。任意接種ワクチンの必要性は定期接種ワクチンと変わりません。

定期の予防接種の対象年齢

任意接種の接種できる年齢



おすすめ接種時期(数字は接種回数)



同時接種: 同時に複数のワクチンを接種することができます。安全性は単独でワクチンを接種した場合と変わりません。国や日本小児科学会も乳幼児の接種部位として太もも(大腿前外側部)も推奨しています。詳しくはかかりつけ医にご相談ください。

●異なる種類の注射の生ワクチン同士の接種間隔は最短で4週間です(4週間後の同じ曜日から接種可)。

詳しい情報は <https://www.know-vpd.jp/>

VPD

検索